

まちの名に 歴史あり

問い合わせ 文化財事業団 (TEL 893・8111)



～郡津 その2～

とりま だ 鳥待ち田 郡津神社から私部へ戻る道を、神社の南から南尾谷へだらだらと下り、直角に二度曲がると谷に出ます。

その曲がり角に、田が一枚あり、この田のことを鳥待ち田といいました。その名前から昔ここから南尾谷の湿地帯に舞い降りる鳥を、猟師がじっと待ちかまえていた様子が目に浮かぶようです。

今では、その田や南尾谷には長宝寺小学校が建ち、その面影は消えてしまいました。

ちやや 茶屋

京都から高野山へと続く東高野街道沿いには、旅人の疲れを癒してくれる休憩所がいくつもありました。なかでも郡津の茶屋は有名で、江戸時代の絵図にも記載されていました。

むかし、ある日のこと、茶屋の前に来た旅の僧侶が水を一杯ほしいといいましたが、あまりにみすばらしい姿に誰も相手にしませんでした。気の毒に思った上茶屋の人が水を差しだすと、実は、その僧侶とは弘法大師で、お礼に清水の湧き出る場所をその人に教えた、という言い伝えが残されています。



いくの 生野

今池を取り巻いて郡津の「生野」があります。その東と南には倉治と私部の幾野があります。どちらも同じ意味で荒野・原野のことで、開墾の進まない水の便の悪い土地のことです。

しかし、逆に住宅地としては好適地といえるため、今ではたくさんの住宅地になりました。

にくぼ 西久保

東高野街道の下茶屋から東の台地一帯、郡津神社までを西久保といいます。久保というのは窪地のことで、水たまり・水が良く沸くという意味で、多くはくぼんだ小さな水田適地のことを言います。

郡津の場合は、窪地ではなく台地になっていますが、その周辺に水量の豊富な井戸が多かったため、西久保の田のほとんどが一等地でした。

にのみや 二ノ宮

明治時代までは郡津には一ノ宮・二ノ宮・三ノ宮の三つの神社がありました。現在の郡津神社は一ノ宮で、祭神は素盞鳴尊で、二ノ宮は住吉神を、三ノ宮は天照大神を祀っていました。

二ノ宮は東高野街道にあった上茶屋の西の台地上にあり、三ノ宮は大塚にありました。明治6年に二ノ宮・三ノ宮が一ノ宮に合祀されて、名前も郡津神社になりました。



郡津神社

地名探訪～郡津～

歴史解説ボランティアと、地名に残された歴史をたどってみませんか。

とき・ところ 5月22日(火) 午前10時に郡津駅東口集合

コース 長洲・東高野街道(茶屋)・郡津神社・明遍寺

参加費 100円(保険・資料代)

定員 先着30人

申し込み・問い合わせ 5月1日(火) 午前9時から文化財事業団(TEL 893・8111)